

アダム・スミス書誌解説

杉 本 俊 朗^{*}

経済資料協会は『国富論』刊行200年を記念して昨1976年5月28日に関西部会の主催でスミス研究の動向について水田教授と杉原教授に講演をお願いし、その速記は本号に掲載されている。この講演は会員の研修に大きな効果を与えたと思われるが、文献が数多く挙げられたので、それらを確認したり、検索する必要に備えて、この機会にスミス書誌の紹介をもって両教授の講演の参考資料に代えることにした。

ここに書誌というのは、書目、文献目録といった目録に編成されたもののほか、少数の文献紹介ないし展望をもふくんでいる。書誌の定義はどうなっているのか知らないが、便宜上こうしておく。スミス書誌の内容は、たいてい共通であって、スミス自身の著作、スミスについての研究、スミスの伝記、スミスの蔵書などから構成されているが、いままで作成されたものには全部をふくむもの、一部に限られるものなどさまざまなものがあるので、それぞれを分類して説明するのは困難である。そこで包括的で全般的なものから順次とり上げるつもりであるが、配列はか

なりやっかいであろう。なおスミス記念文献展示会がわが国ではたびたび開かれ、その目録も作成されてきているが、本協会会員の業務と関係あるものであろうから、終りにまとめて掲げた。

〔1〕 水田 洋：アダム・スミス書誌。水田 洋：アダム・スミス研究，未来社 1968，巻末横組 14～101，第3刷 Addenda 102～111。I. 著作 (14～26)，II. 書誌 (26～27)，III. 研究 (27～111) にわかれる。I は『道徳感情論』，『国富論』，『哲学論文集』，『雑誌論文』，『講義ノート』，『国富論草稿』，『手紙』，『全集』等について解説したものであるが、『国富論』は初版以降の版次のあるものや，19世紀前半から刊行された普及版は編集者の序文や註解の付されたものととどめられており，また各国語訳も重要なものに限られ，その他の重版は〔2〕にゆだねられている。II 書誌は本稿でとりあげた〔3〕をはじめとするものに少しく説明が加えられているが，重複するので解説は省略する。III 研究はこの書誌

^{*} すぎもと としろう 横浜国立大学教授

の中心をなすもので、本書の第3刷で Addenda が加えられ、スミスの生前から1972年までの内外の研究文献が一望のもとに収められている。分類はされておらず、日本人をふくめて著者名順に配列されており、いまのところもっとも新しい研究まで知ることができる書誌となっている。

[2] *The Vanderblue Memorial Collection of Smithiana. An Essay by Charles J. Bullock and a Catalogue of the Collection presented to the Harvard Business School by Homer B. Vanderblue, Ph. D. in memory of his father, Frank J. Vanderblue and deposited in the Kress Library of Business and Economics. [1939]. Baker Library, Harvard Graduate School of Business Administration. Boston, Massachusetts. 14, 68.*

ハーヴァード大学ベイカー図書館内にあるクレス文庫に所蔵されているスミス文献の目録である。同大学ビジネス・スクールの教授ヴァンダブリューは1920年代の半ばにワシントンの古書店で『国富論』の初版と再版を入手したのがきっかけで、スミスの著作および関係文献の収集に志し、その後10年余をかけて収集をつづけ、のちこれがビジネス・スクールに寄贈された。このコレクションにクレス文庫の中心をなすフォクスウェル・コレクションから補充されて、クレス文庫中に別置さ

れた。ヴァンダブリューの主な関心は『国富論』にあったので、その収集はほぼ完璧であったが、『道徳感情論』その他については不十分であったので、この目録ではヴァンダブリュー・コレクションにはなくても、現存していることがわかっているものが掲げられている。

本書の冒頭は同大学名誉教授で財政学者バロックのエッセーにはじまるが、これはとくに解説といったものではなく、10ページばかりの文字通りのエッセーで、つぎに司書アーサー・H・コールが目録のまえがきを1ページ付して、前記のようにこのコレクションにないもののエントリーにはダブルダガーをつけたなどと断っている。

目録は『国富論』、『国富論』要約と抜粋、『道徳感情論』、『哲学論集』、『哲学論集』抜粋、『全集』、『雑著作』、『講義』、『手紙』、『アダム・スミス著作の批評』、『アダム・スミスの伝記および資料』、『アダム・スミス蔵書』、『肖像その他』より構成されている。まず『国富論』であるが、これが英語版、中国語版、チェコ語版、デンマーク語版、オランダ語版、フィンランド語版、フランス語版、ドイツ語版、イタリア語版、日本語版、ポーランド語版、ロシア語版、スペイン語版と13ヶ国に分かれる。この順序は英語版を除いてアルファベット順によっている。英語版はさらにイングランド、スコットランド、アイルランド、スイス、ア

メリカ合衆国に分かれる。各国版とも配列は刊年順であるから、イングランド版のトップには初版が掲げられている。各項の記入であるが、これは詳細とはいえない。『国富論』の元版ともいえるものは、初版以来の刊行者 W. Strahan and T. Cadell ないしその後継者 T. Cadell and W. Davies の刊行した11版(1805年)までぐらいであろうが、各巻のページの記入がなく、また判形も天地を cm で記入しているにすぎず、書誌事項が不十分といえよう。ようやく1847年の Nelson 刊本からページが入ってくるが、また1869年の Rogers 版からは入っていない。この点はスコットランドで刊行された諸版についても共通しているし、英語以外の各国語訳本もページはない。したがってこの目録ではすべての書誌事項をたしかめるわけにはいかない。しかし19世紀後半にとくに数年おきに刊行された普及版、前出の Nelson 刊本やマッカロック版その他などは、重刷本といえどことごとく掲げられており、また同じ版本でアメリカで刊行されたものもアメリカの部にのっている。エヴリマンズ・ライブラリー本も重刷ごとにのっているが、また逆にキャナン版の第5版(1930年)が欠けているようなところもある。いずれにせよモダン・ライブラリー版の刊行された1937年ごろまでの分はほとんど網羅されており、たいへん便利な目録である。

『道徳感情論』以下についても同じこ

とが いえる。ただ『著作の批評』、『伝記と資料』はヴァンダブリューの収集したものに限られており、所蔵目録をなしているから網羅的ではない。

この目録の作成後もこのコレクションは収集をつづけており、つぎのものが情報を伝えている。

Cole, Arthur H.: *Hewing to the Line. The Vanderblue Memorial Collection of Smithiana*. Reprinted from The Harvard Business School Alumni Bulletin. Spring 1948.

これは目録刊行後に入手した分の追加目録で2ページ程度のものであるが、そのなかには、山口隆二氏が寄贈された『印紙税略説』が見られる。これは『国富論』中の印紙税関係を陸奥宗光(租税頭)が翻訳したものとされ、明治6年に出版の本である。また石川暎作訳の『富国論』第1巻の合冊本(明治17年)も追加されている。

その後どれほど補充されているかわからないが、1939年の本目録も絶版の模様であるから、できるだけ最近の時点での所蔵を知らせる新版の刊行が望ましい。

[3] Amano, Keitaro [天野敬太郎](ed.): *Bibliography of the Classical Economics*, Part 1, Feb. 1961. The Science Council of Japan, Division of Economics, Commerce & Business Administration. Economic Series No. 27. 206.

日本学術会議第3部が当時刊行して

いた双書の一部で、幹事水田洋会員の
発案によるものと伝聞している。タイ
トルは Part 1 となっているが、実は
内容は Part 1. Adam Smith と Part
2. Thomas Robert Malthus とから
成り、前者は p. 1~132 までである。

この目録の前身をなすのは関西大学経
済学会資料室名義で『関西大学経済論
集』、第10巻第1号、第2号(1960年7;
9月)に連載された「アダム・スミス文
献目録」であり、はしがきによれば天
野敬太郎(同大学図書課長)が作成を
担当し、1959年末までの分を収録した
とあるが、こちらは1960年末までの分
がふくまれている。Section 1. Works
by Smith と Section 2. Works about
Smith に大別され、内外の文献が網羅
されており、日本語文献(少数の中国
語文献も)の著訳者はローマ字で配列
されているが、タイトルは和文活字で
組まれている。スミスの著作は〔2〕が
詳細であるので、重要な版に限ってい
る点は〔1〕と同じであるが、〔2〕で
ページの記入のないものに付されている
ばあいがある。これは現物を参照でき
たものにのみ限られているのかどうか、
はしがきになにも記されていないので、
記入のルールがわからない。また『国
富論』の各国語訳についてみると、
〔2〕にないポルトガル語訳、セルボー
クロアト語訳、トルコ語訳などが載っ
ているが、その多くは1939年以後の出
版物であるから当然である。要するに
著作全体について〔2〕のあと20年間に

出たものはこれで追加されているわけ
である。

この書誌の特色は Section 2 の研
究にあることは、〔1〕と共通している。
これは A. General Works, B. Bibli-
ographies 以下主題別に X. Miscell-
aneous Works までに細分され、そ
れぞれが外国文献と日本文献に区分さ
れているが、その詳細にして包括的な
ことはおどろくべきほどであり、単行
書はもちろん、単行書の内容の分出、雑
誌論文、書評、新聞掲載論評に及んでお
り、まったくどうしてこれをつくった
のかと作業方法をうかがい知りたくな
るほどのものである。分量も Section
1 の p. 1~17. にたいして Section 2
は p. 18~132 という大きさであるか
ら、もってその網羅性の一端が推測さ
れよう。24の主題に細分されているの
で、分類がすっきりいかない面もあろ
うから、この面で難点もあろう。とく
に外国文献は現物にあたることができ
ず、タイトルのみで分類せざるをえな
かったのではないかと臆測もされるの
で、研究者からの異論もあろう。しか
し包括性と量の点では世界でこれに匹
敵するもののないスミス書誌であり、
編者の功績は大いに評価さるべきであ
って、研究者は感謝してしかるべきで
あろう。

〔4〕 杉原四郎：アダム・スミス研
究文献解題。大河内一男編：国富論研
究 III, 筑摩書房 1972, 239~261。

3巻より成る『国富論研究』の最終

巻に付されたものであるが、『国富論』に限定されないスミス研究全般にわたる文献解題である。全体は1から4に分かれ、1は目録、抄録、学界展望にあてられ、この解説でとり上げたものも当然にふくまれている。2はスミスの著作、蔵書を扱う。3と4とがこの解題の中心をなしており、3はまた伝記的研究、思想史的研究、経済学的研究に分かれ、19世紀以来の主要な外国の研究書が解題されている。4はわが国の研究書を対象とするものであるが、前掲の〔1〕の水田書誌や後掲の〔5〕やそのなかで挙げられた展望があるので、筆者は主に1967年以降1972年までの文献をとり上げている。本解題は全体として分量が限定されているが、いまでは発表後5年近くたってしまったものの、比較的最近までの文献を解題したものとして重要である。

〔5〕 アダム・スミスの会編：本邦アダム・スミス文献一目録および解題一、弘文堂 1955、11、227。

1949年に発足したアダム・スミスの会の事業として行われた目録編集作業の成果である。冒頭に「明治初期の経済学文献に現われたアダム・スミス」（堀経夫）、「国富論の邦訳について」（三辺清一郎）の2篇の解説があり、本文は明治2年から昭和27年にいたるわが国で刊行されたスミス関係文献を目録化している。配列は年代順で、各年のなかは単行本、雑誌論文・新聞論評、学説史・論文集・辞典、文献目

録・学会記事の順に柱が立てられている。単行本とはスミスを直接に対象とした著書、スミスの翻訳書をふくむが、学説史云々は経済学史の通史や原論その他の単行書でスミスに関係したものであるという趣旨である。分類としては少々わかりにくいラミがある。戦後20年代というまだ困難な時期によくも作成されたものである。いまから顧みれば、脱漏もあると思うし、すでに25年を経ているし、その後のスミス研究は量質ともにいちじるしく発展しているので、新版が望まれる。スミスの会でもその計画があるようである。なお副題にあるように重要なものについては34篇の解説が付されている。

いまのところ、これを補うものは目録としては〔1〕があり、展望的なものとしては大河内一男・田添京二：日本におけるアダム・スミス研究の諸段階。アダム・スミスの会；大河内一男編：アダム・スミスの味、東京大学出版会 1965、65～110 や杉原四郎：日本におけるアダム・スミス。国富論研究 III、149～186。その他があるが、詳しくは〔1〕と〔4〕を参照していただきたい。

〔6〕 アダム・スミス著書（主要版次）全国所在一覧。アダム・スミスの会；大河内一男編：アダム・スミスの味、東京大学出版会 1965、322～326。

前掲〔5〕を編集するさいに行ったアンケートの結果を整理のうえ、再度アンケートして追加、訂正したものの目録で、1960年6月現在の所蔵調査。収

録した著作は『道徳感情論』（第6版まで）、『国富論』（第5版まで）、『哲学論文集』、『全集』。照会先は全国主要大学、図書館、スミス研究者であるが、個人所蔵の分については遺漏のおそれなしとしない由。これを補完するのが〔7〕である。

〔7〕 松田寛：日本における、アダム・スミスの原典ならびにその他の諸版本、1759—1900。社会思想3（1）、201—224（4、1973）

1952年以降経済学史学会では数次にわたってわが国所在の経済学古典調査を行った。その結果は困難な条件のためまだ刊行されていないが、資料を管理しておられる早稲田大学の松田寛教授がスミスの著作についてまとめられた結果がこれである。目録化の方式はヴァンダブリュー目録にならっているので、相互参照に便利である。収録範囲も同一であり、『国富論』、『同要約と抜粋』、『道徳感情論』、『哲学論集』、『全集』、『法学講義』および各国語訳をふくむ。1点ごとに所蔵者が挙げられ、〔6〕との不一致には註がつけられている。本調査による所蔵の現在時点が明確でないで、どちらが確実かよくわからない。その後わが国には海外から相当入ってきたようだが、調査ということはなかなか大変なことのようなのである。もし将来このような調査が行われたらあい、本協議会会員機関の積極的協力を期待したい。

〔8〕 Bonar, James (ed.): *A Cat-*

alogue of the Library of Adam Smith. Edited with an Introduction by James Bonar. London and New York, Macmillan, 1894. 30, 126. Second Edition. 1932. 34, 218.

スミスの旧蔵書については前世紀中にボナーが調査し、1894年に目録として発表した。ボナーはさらにこの作業をつづけて、旧蔵書の行方を追って、1932年にこの目録の再版を出した。ボナーは1941年に歿するまで、なお追加調査をつづけたが、結局この仕事は中断された。ボナーの欠を補ったのが水田教授の〔9〕であるが、スミスの蔵書の全体については水田洋：アダム・スミスの蔵書。アダム・スミスの味、東京大学出版会 1965、215—303。や同：アダム・スミスの蔵書、経済学論集（東大）40（3）、74—80（10、1974）に詳細な解説がある。

〔9〕 Mizuta Hiroshi (水田 洋): *Adam Smith's Library. A Supplement to Bonar's Catalogue with a Checklist of the whole Library*. Cambridge at the University Press for the Royal Economic Society. 1967. 19, 153 p.

この水田目録はボナー目録を追加増補して、さらに旧蔵書がボナー目録、東大所蔵スミス蔵書目録、この追加目録の三者のどのページに載っているかを一覧できるリストを収めている。

〔10〕 Yanaihara Tadao (矢内原忠雄): *A full and detailed Catalogue*

of Books which belonged to Adam Smith Now in the possession of the Faculty of Economics, University of Tokyo. With Notes and Explanations by Tadao Yanaihara. Tokyo, Iwanami, 1951. viii, 126. Reprinted by A. M. Kelley in 1966.

1920年に新渡戸部稲造教授が東大のためロンドンで購入したスミスの旧蔵書は141部308冊であるが、ほかに1781年付の手書きのスミス蔵書目録がある。戦後初期に矢内原教授が中心となって、ボナー目録と照合できるように作成したのがこれである。この蔵書については矢内原忠雄：東大経済学部所蔵アダム・スミス蔵書について、アダム・スミスの味、195～214を参照。

[11] Franklin, Burt and Cordasco, Francesco: *Adam Smith. A Bibliographical Checklist. An International Record of Critical Writings and Scholarship Relating to Smith and Smithian Theory 1876-1950.* New York, Burt Franklin 1950. 63.

編者のフランクリンは蒐書家であり、戦後初期からニューヨークで古書店を開業し、書誌の作成のほか複製版の出版にも携わった。先年歿してその文庫が一橋大学図書館に収まったことは、周知のとおり。この書誌は『国富論』100年記念以後に刊行されたスミス関係文献をふくんでいる。編者によれば、1876年は現代のスミス文献を代表する

資料を収集する自然な出発点をなすようだという。第1部は一般的書誌、辞典、参考図書となっており、59点収録されているが、これは直接にはスミス文献とはいえない。戦前のお阪商大の『経済学文献大鑑』もあるし、ベスターマンの書誌も入っている。第2部は Critical Studies and General History と題して、著者名順に380点ばかりが配列されている。収録範囲はひろいが、それほど綿密に選択されたものとは思われない。ケインズ父子が同一人とされたり、W. R. Scott と W. A. Scott もいっしょにされている。フランクリンはこれよりさきにリカードウ書誌をつくったが、そちらの方がまじだったように記憶している。

[12] Scott, W. R.: *Studies relating to Adam Smith during the Last Fifty Years*, edited by A. L. Macfie. From the Proceedings of the British Academy. Vol. xxvi, 1940, 28.

これはスミスの研究家スコットの遺稿であるが、研究の展望であって、目録の体裁はとっていないが、時期は少しずれるものの[11]を補うものとして掲げておく。水田教授も「本書は、その内容からいって、1890-1940年間のスミス研究書誌でもあるので、言及された文献はすべて、注にあげておくことにした」と述べているので、[1]を収める『アダム・スミス研究』の補論2、第2章第4節「スミス研究の50年」を参照されたい。

[13] Recktenwald, Horst Claus : *Ausgaben des "Wealth of Nations."* Adam Smith: *Der Wohlstand der Nationen. Eine Untersuchung seiner Natur und seiner Ursachen.* Aus dem Englischen übertragen und mit einer Würdigung von Horst Claus Recktenwald. München, C. H. Beck, 1974. 833~838.

戦後ドイツ連邦共和国で新しく翻訳された『国富論』に付されたもの。訳者のレクテンヴァルトはエルランゲン-ニュルンベルクのフリートリヒ-アレクサンデル大学の教授であるが、財政学を専攻しているようである。ドイツ民主主義共和国では戦後の1963年に Peter Thal による新訳の第1巻が出たが、第2巻がようやく1975年に出たのみで、第3巻は未刊である。これにたいしてレクテンヴァルト訳は付録もふくめて860ページの1冊本として1974年に刊行された。なおレクテンヴァルトは『国富論』200年記念として昨1976年に "*Adam Smith. Sein Leben und sein Werk*" という著書を出しているが、この書物はスミス関係の図版や写真が豊富に収められている点で楽しめるが、本文の構成、対象などは一風変っている。その所以は簡単に説明するわけにはいかないので、こうしておくだけにとどめておく。

表記のとおり『国富論』の諸版のリストなのであるが、各国語版を網羅したものではなく、英語版とドイツ語訳

に限られている。英語版は刊行された国（イングランド、スコットランド、アイルランド、スイス、アメリカ合衆国、インド、ドイツ）に分けられ、さらにそのなかを刊地（たとえばロンドン、エディンバラ、ダブリンなど）ごとに区分し、そのなかで刊年順に各版を配列している。刊地別を除いてすぐにヴァンダブリュー目録の方式との近似に気がつくが、リストの終りのレクテンヴァルトの追記によると、やはりヴァンダブリュー目録をもとにして、ブリティッシュ・ミュージアムやキール大学世界経済研究所の目録によったほか、諸大学図書館の貸出によってしらべた由である。ただし困ったことにタイトルは全部省略し、版次、巻数、出版者をドイツ語で表記しているだけである。たとえば初版は 1776 1. Aufl., 2 Bde. (W. Strahan u. T. Cadell) といったぐあいである。収録年次はこの訳書の出た1974年までとなっているから、Skinner 編のペリカン本や西ドイツで出た『全集』のリプリントまで収められている。またヴァンダブリュー目録には載ってない重刷本も補われている模様であり、1939年以降の『国富論』の刊本をしらべるのには便利である。どういうわけか出版者名に誤植があり、Cadell は11版までは正しいのだが、全集にいたって Cattle となってしまうという奇妙さである。その他 Macpherson が Mecherson, Oliphant が Oliphon などが目につく。History of

Economic Thought Newsletter, No. 17, Autumn 1976 にレディング大学の K. H. ヘニングスという人が前掲のレクテンヴァルトの著書の書評を書いているが、その終りの方でレクテンヴァルトがこの訳書中の『国富論』諸版のチェックリストをこの著書に入れなかったのは残念だと述べている。まことにさようで、誤植を訂正し、タイトルなど書誌事項を整えて著書に収めてくれたらよかったと思う。

〔14〕 高垣寅次郎：アダム・スミス研究文献集録，商学研究 3 (1)，371～387 (6，1923)

1923年はスミス生誕200年に相当し、わが国では講演会、展示会、学術誌の記念号によって祝賀が行われた。東京商科大学は当時の機関誌『商学研究』の1号を挙げて「アダム・スミス生誕二百年記念論集」にあて、それに付されたのがこれである。作成担当は若き日の高垣寅次郎先生で、単行書に限って雑誌論文に及んでいない。著作、研究書、伝記に三分されている。記入が簡単にすぎて、Another ed. London, 1812. といった程度のものがあって、刊行者やページを欠いているので、正確にどの版を指すのかわからないうらみがある。当時のことであるから同大学の蔵書もいまのように充実していなかったであろうし、すべて現物によったのではなさそうである。しかしスミス書誌としてはわが国では先駆をなすものではあるまいか。

〔15〕 アダム・スミス生誕二百年記念会出陳書目，三田学会雑誌 17(7)，322～365 (7，1923)

生誕200年に当って慶応義塾大学経済学部は1923年6月5日、講演会を開催し、同時に4日から10日までスミス関係文書展覧会を図書館で開いた。その目録がこれであるが、これが掲載された『三田学会雑誌』は記念号としてスミス研究論文で埋められている。全体はスミスの著書、『国富論』中に引用せられたる諸著、スミスに関する著書、第17，8世紀に於ける重要な経済書から成るというたいへん広範囲のもので、多くのものにそれぞれ説明付というていねいな目録である。

〔16〕 大原社会問題研究所図書館：大原社会問題研究所蔵アダム・スミス著書並に『諸国民の富』引用図書，大原社会問題研究所雑誌 1 (1)，262～265 (8，1923)

大原社会問題研究所の蔵書中からスミスの著書と『諸国民の富』に引用されたもののリストである。同研究所はこれ以前にヨーロッパで図書を多量に購入したが、このときはまだ整理ができていなかったのもので、このリストの点数は限られている。

〔17〕 本庄栄治郎・岡崎文規・河上福平共編：スミス関係書目，経済論叢 18 (1)，370～382 (1，1924)

京都大学経済学会も生誕200年記念として1923年6月5日、講演会と展覧会を催し、さらに『経済論叢』は記念

号を編んだ。それに付されたのがこの書目である。第1類 スミスの論著・書簡及び伝記、第2類 スミスに関係ある和書に二大別され、それぞれさらに細分されている。スミスの論著の翻刻という分類のなかには London 版 1846 といった記入例があって、それだけではどういう版かわかりにくい点は〔14〕と似たところがある。これとは別に『経済論叢』の同じ号の記念会記事のなかに展覧会の陳列品の説明と出品者別目録がある。当時主要出陳品目録が配布された模様であるが、これがどんなものであったかわからない。

200 年記念事業としては以上のほかに、経済学研究会主催の講演会があり、その記事は『国家学会雑誌』第37巻第7号（1923年7月）に掲載されているようであるが、私はこの号を参照できなかったので、〔5〕の大正12年の該当記事をみると、展覧会図書目録が載っているようである。それには第2部としてスミス文庫とあるから、この展覧会は東大において催され、文庫も公開されたのかもしれない。

〔18〕 *A List of Adam Smith's Works. Exhibited at Keio University Library from June 17th to 22th, 1940.*

表は英文で以上のようになっているが、裏表紙は『アダム・スミス歿後150年記念展覧会目録、会期昭和15年6月自17日至22日、主催慶応義塾大学経済学部 図書館 理財学会』とある。二

つ折りの8ページだが、本文の目録は6ページ。大正12年に催した生誕200年記念展について17年ぶりに開いた展覧会の目録だが、内容はこの種のものの典型のごとく(1)初期作品、遺稿、全集、文集、(2)道德情操論、(3)国富論正版、偽版、省略版、(4)国富論異版、(5)国富論邦訳、中華民国訳、(6)国富論独逸訳、(7)国富論仏蘭西訳、(8)伝記、スミス文庫、肖像に分かれている。

〔19〕 アダム・スミス生誕 250 年記念展覧会目録 会期昭和48年10月23日～26日会場図書館記念室 慶応義塾経済学会 慶応義塾大学三田情報センター

前者の展覧会と時をへだてること33年にして開かれた展覧会の目録。タイプ・オフセット34ページで、〔18〕にくらべて格段の充実ぶりである。この目録はヴァンダブリュー目録にはほぼ準拠して作成されているから、構成をとくに説明する必要はないであろう。ただ順序は少しちがっていて、『哲学論集』と『講義』が『道德情操論』（感情論としていない）と『国富論』のあいだに入っている。展示点数は翻訳をふくめて『道德情操論』18点、『哲学論集』5点、『講義』2種6点、『国富論』90点、『国富論草稿』3点、『全集』3点、『国富論抜粋』8点、『手紙』11点、『伝記』13点、『蔵書目録』4点、『書誌』5点、『研究書』95点で、この種の展覧会としては大規模なものであった。慶応義塾大学所蔵のほか学外の大

学、個人からの特別出品があったが、先年雄松堂の手で輸入された手紙の現物が4通（三田情報センター蔵2通、京都外国語大学蔵1通、竹内謙二氏蔵1通）が展示されたのが注目された。

〔20〕『国富論』刊行200年記念アダム・スミス文庫公開展示会目録 会期 昭和51年6月18日・19日 会場 東京大学総合図書館集会室 東京大学経済学部 24ページ

200年記念事業として東大経済学部が催した展示会の目録。タイトルをみると、スミス蔵書のみを公開したようにみえるが、以下のようにスミス文庫がハイライトであったためこういうことになったのであろう。東大経済学部の所蔵するスミスの旧蔵書については、〔10〕があるので、本目録の1. アダム・スミス文庫ではこれの参照を請い、〔10〕の分はこの目録には掲げられず、戦後入手した4部7冊が載っている。文庫は全部が展示された模様である。というのはこの会期が本協議会の第31回総会と一致したため、私たちは北海道大学に出張していたので、だれも参観することができなかったからである。全部が公開されたのは、はじめてではないかと思う。IIは著作（各国語訳をふくむ）、IIIは蔵書目録、IVは伝記、Vは文献目録で、このへんまでは慶応の目録と似た分類である。この目録の特色はVIの明治初期におけるスミス紹介文献で、その典拠となった外国書ごとに分けて、25点が掲げられて

いる。VIIは日本におけるスミス研究、VIIIはスミス年譜である。スミス文庫の公開に中心がおかれているので、それ以外は〔19〕ほどの規模ではなかった。

〔21〕『国富論』刊行200年記念展示目録 会期 昭和51年10月20日・21日 会場 日本大学経済学部図書館第6閲覧室 日本大学経済学部図書館 18ページ

近年積極的に古典を収集している日本大学経済学部の展示会の目録。内容は他の場合とほぼ同様で、I スミスの著作および各国語訳、II 明治初期の文献にあらわれたアダム・スミス、III 研究書、IV 伝記、V 書誌・蔵書目録、VI アダム・スミス旧蔵書に分けられている。Iで目立つのは『国富論』第3版のスミスのサイン入り贈呈本である。IIは東大の目録と同趣旨であるが、こちらの方が点数は少ない。ほかは慶応や東大のものと似たようなものであるが、最後の旧蔵書は同大学法学部図書館の蔵書で、スウィフトの全集であるが、数年前に崇文荘から入手したものである。

〔22〕*Books relating to Adam Smith Possessed by The Hitotsubashi University Library*. 一橋大学附属図書館 1952. 52.

一橋大学図書館の所蔵目録。タイプ謄写版。1952年にどういうわけで作成したのか説明は付されていない。欧文文献に限られ、著作と研究書に二分さ

れ、前者は『道德感情論』、『国富論』等に分けて、刊年順に配列されている点は、他の目録と同じ。研究書は著者名順で、所蔵目録であるから全部について請求番号が記されている。研究書といっても経済学の通史や財政学もふくまれ、また『資本論』まで入っている。

〔23〕 三辺清一郎：アダム・スミス書誌，三田学会雑誌 34(9)，117～152(9，1940)

〔24〕 三辺清一郎：国富論書誌—アダム・スミス書誌続篇—，三田学会雑誌 36(9)，23～68(9，1942)

〔25〕 三辺清一郎：翻訳『国富論』—国富論書誌続篇—，三田学会雑誌 37(9)，69～99(9，1943)

〔26〕 三辺清一郎：アダム・スミス書誌拾遺，三田学会雑誌 38(5/6)，80～120(6，1944)

慶応大学が1940年6月〔18〕に挙げた展示会を開催したさい、陳列の衝にあたった、当時図書館に勤務された筆者が筆をとって成ったもの。書誌とあるが、目録の体裁を備えたものではなく、スミスの著作と翻訳についてのきわめて詳細な解題ともいうべきものである。

この書誌解説では冒頭に記したように、書誌を書目というように一応限定したのであるが、こういう形の書誌もあるという見本として加えておいた。

あとがき 書誌の解説はどの程度までに及んだらよいのか、なかなかやっかいである。通りいっぺんに終ると、どれも同じようなものになる。1点ごと片づけてから順序をきめればよいと思って、そうやってみたが、精粗さまでまあおかしなものになってしまった。配列も相互関連を考えてきめるのが当然だが、これもすっきりしない結果となった。私のいまの健康状態では本を抱えたり、動かしたりすることは厳禁であり、資料を十分に集めたうえで詳細な説明を加えることはできなかったが、主要なものでとり上げなかったものはないはずである。編集委員の鍋島さんにはたいへんご迷惑をかけた。どうもこの種の解説は簡単な内容であっても、とりかかりにくいものである。ためにおくれが重なって、いまにいたった。鍋島さんにはだいぶしかられたが、止むをえなかった。